



News Release

2021年4月9日

株式会社 たけびし

(コード番号 7510 東証1部)

経営戦略室 企画部

水道情報活用システム対応ゲートウェイユニット『デバイスゲートウェイ® Ver3』発売のお知らせ

株式会社たけびし（本社：京都市、代表取締役社長 小倉勇）は、水道事業における IoT 活用推進モデル事業に対応したゲートウェイユニット「デバイスゲートウェイ® Ver3」を発売します。

「デバイスゲートウェイ® Ver3」は水道事業における IoT 活用のデータ基盤である水道標準プラットフォームとの接続機能を搭載しました。水道施設内で稼働する PLC やセンサ等のフィールド機器 170 シリーズから設定だけで簡単にデータ収集ができる為、データを活用した監視や水運用の効率化に貢献します。

記

1. 製品名 デバイスゲートウェイ
2. 型式 DGW-W710（ハードウェア版：ゲートウェイユニット）
DGW-D20（ソフトウェア版：Docker）
- 3 発売日 2021年5月13日
4. 価格（定価） DGW-W710 218,000円（税別）
DGW-D20 150,000円（税別）
5. 販売目標 年間 500 ライセンス
6. 主な特徴
 - ・水道標準プラットフォームと簡単接続
 - ・フィールド機器 170 シリーズとデータ連携
 - ・産業用途で豊富な実績

【お問い合わせ先】

株式会社たけびし 技術本部 システムソリューション開発部

TEL 075-325-2171 / FAX 075-325-2273

fa-support@takebishi.co.jp

<製品の特徴>

① 水道標準プラットフォームと簡単接続

水道情報活用システム※1 において、水道標準プラットフォーム※2 と施設間をプログラムレスで簡単にデータ連携ができます。デバイスゲートウェイは、水道標準プラットフォームとの連携を実現する「標準インターフェイス」※3 と「標準汎用インターフェイス」※4 に対応しており、お客様のご要望に合った自由度の高いシステムを構築することができます。

② フィールド機器 170 シリーズとデータ連携

施設内で稼働している各社 PLC や調節計など様々なフィールド機器と設定だけでデータ連携ができます。各機器との通信設定や診断は、WEB ブラウザで遠隔からでも簡単に設定でき、短期間でシステム構築ができます。また、産業用途で使われるロボットや CNC などともプログラムレスでデータ連携ができます。

③ 多様な上位システム連携

産業用途では、「OPC-UA」のインターフェイスを搭載し、スマート工場化を推進します。
また、各種クラウドベンダーの IoT サービスと連携機能を搭載しており、用途に合わせた IoT システムを構築し、生産性を向上させることができます。

④ ソフトウェア版をラインナップ

仮想化環境(Docker)で動作するソフトウェア版での提供により、お客様がお使いになるコントローラに容易に組み込むことができます。水道標準プラットフォームやクラウドサービスとの連携やエッジコンピューティングなど様々な用途にお使い頂けます。

※1 水道情報活用システムとは

経済産業省及び厚生労働省が平成 26 年度から連携して、水道事業等における CPS/IoT の活用の具体的な姿として検討し、水道事業者等が有する水道に関する設備・機器に係る情報や事務系システムが取り扱うデータを横断的かつ柔軟に利活用できる仕組み。

※2 水道標準プラットフォームとは

水道情報活用システム上でデータを流通させる上で、データ蓄積・流通基盤として機能する役割。

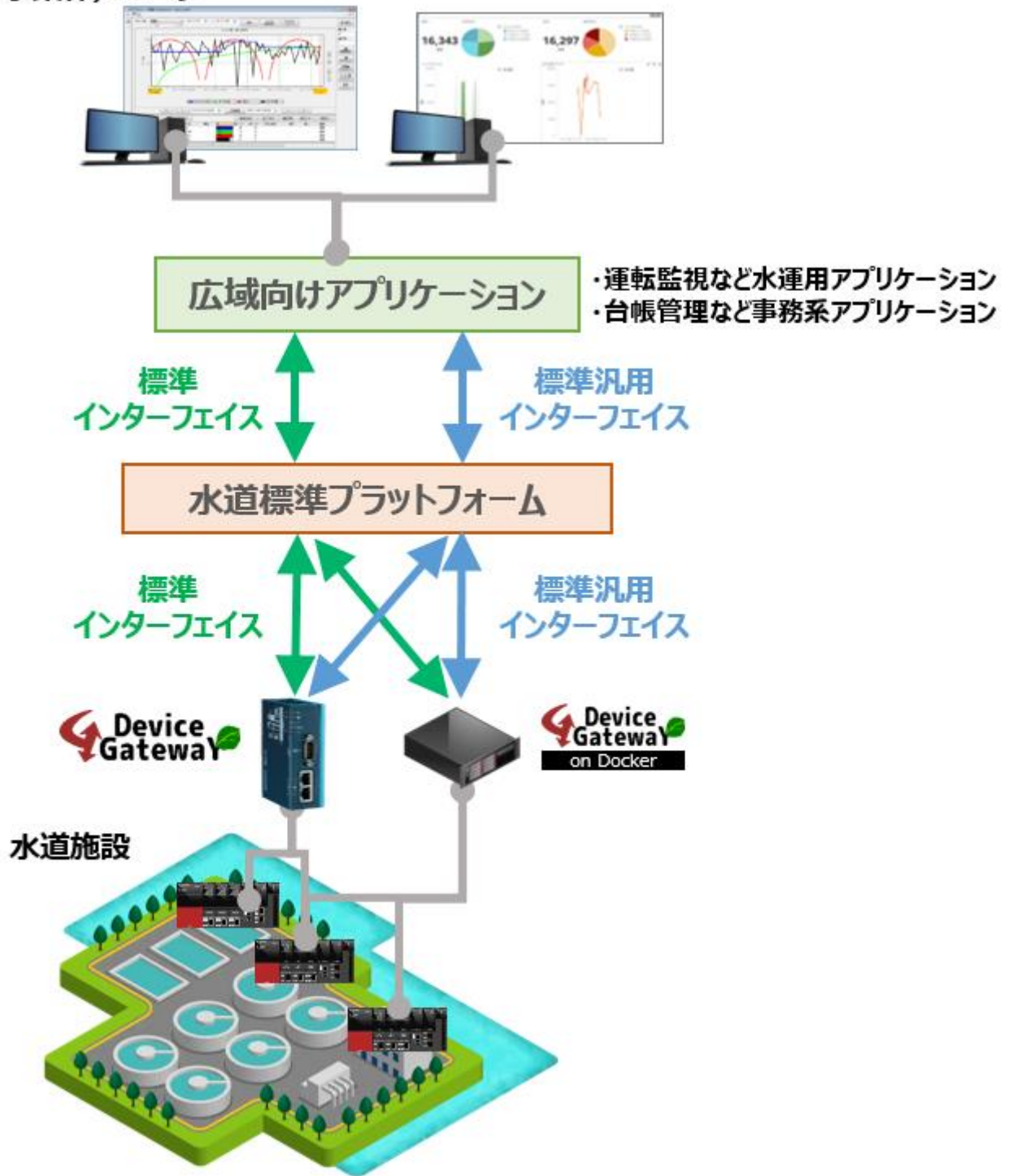
※3 標準インターフェイスとは

水道標準プラットフォームとIoT ゲートウェイ間でデータをやり取りする標準化されたインターフェイス。

※4 標準汎用インターフェイスとは

水道情報活用システムの当初の普及展開にあたり、水道標準プラットフォームとIoT ゲートウェイ間でデータのやり取りを暫定的に実現するインターフェイス。

事業者/ユーザー



以上